

薬 劑 部

1 構 成 員

	平成21年3月31日現在
教授	1人
准教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助教（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	10人（7人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	22人
その他（技術補佐員等）	4人
合 計	37人

2 教員の異動状況

川上 純一（教授）（H18. 4. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成20年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	8編（0編）
そのインパクトファクターの合計	19.84
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	5編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	7編（7編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	5編（5編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	19.84

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Yoshida N, Takada T, Yamamura Y, Adachi I, Suzuki H, Kawakami J: Inhibitory effects of terpenoids on multidrug resistance-associated protein 2- and breast cancer resistance pro-

tein-mediated transport. Drug Metab Dispos 36: 1206-1211, 2008.

2. Naito T, Mino Y, Otsuka A, Ushiyama T, Ozono S, Kagawa Y, Kawakami J: Influence of metal cations on plasma trough concentration of mycophenolic acid and its glucuronide in tacrolimus-treated and cyclosporine-treated kidney transplant recipients. Biol Pharm Bull 31: 1292-1296, 2008.
3. Mino Y, Naito T, Matsushita T, Otsuka A, Ushiyama T, Ozono S, Hishida A, Kagawa Y, Kawakami J: Comparison of pharmacokinetics of mycophenolic acid and its glucuronide between patients with lupus nephritis and with kidney transplantation. Ther Drug Monit 30: 656-661, 2008.
4. Maruyama S, Tsukada H, Nishiyama S, Kakiuchi T, Fukumoto D, Oku N, Yamada S: In vivo quantitative autoradiographic analysis of brain muscarinic receptor occupancy by antimuscarinic agents for overactive bladder treatment. J Pharmacol Exp Ther 325: 774-781, 2008.
5. Maruyama S, Hasuike N, Suzuki K, Yamada S: In vivo characterization of muscarinic receptors in peripheral tissues: evaluation of bladder selectivity of anticholinergic agents to treat overactive bladder. Naunyn Schmiedebergs Arch Pharmacol 377: 463-471, 2008.

インパクトファクターの小計 [14.08]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Sugatani J, Mizushima K, Osabe M, Yamakawa K, Kakizaki S, Takagi H, Mori M, Ikari A, Miwa M: Transcriptional regulation of human UGT1A1 gene expression through distal and proximal promoter motifs: implication of defects in the UGT1A1 gene promoter. Naunyn Schmiedebergs Arch Pharmacol 377: 597-605, 2008.
2. Sugatani J, Osabe M, Wada T, Yamakawa K, Yamazaki Y, Takahashi T, Ikari A, Miwa M: Comparison of enzymatically synthesized inulin, resistant maltodextrin and clofibrate effects on biomarkers of metabolic disease in rats fed a high-fat and high-sucrose (cafeteria) diet. Eur J Nutr 47: 192-200, 2008.
3. Horii T, Osaki M, Muramatsu H: Fluoroquinolone resistance in clinical isolates of Klebsiella oxytoca. Chemotherapy 54: 323-327, 2008.

インパクトファクターの小計 [5.76]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 見野靖晃, 内藤隆文, 高科嘉章, 賀川義之, 川上純一: HPLC-fluorescence法を用いたヒト血漿中遊離形ミコフェノール酸の測定法開発と臨床応用. 臨床化学 37: S145, 2008.
2. 見野靖晃, 内藤隆文, 渡嘉敷俊介, 大塚篤史, 牛山知己, 大園誠一郎, 賀川義之, 川上純一: ミコフェノール酸モフェチル服用患者における薬力学的指標としてのイノシンーリン酸脱水素酵素活性モニタリングの有用性. 臨床薬理 39: S188, 2008.

3. 松本圭司, 兼松直人, 吉田直子, 山田浩, 川上純一: がん化学療法における抗悪性腫瘍薬と漢方薬との相互作用の予測. 臨床薬理 39: S218, 2008.
4. 渡嘉敷俊介, 内藤隆文, 見野靖晃, 大塚篤史, 牛山知己, 大園誠一郎, 賀川義之, 川上純一: 腎移植患者におけるミゾリビンの体内動態に及ぼす腸管吸収と尿中排泄の影響. 薬学雑誌 128: S81, 2008.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 後藤かな子, 木村路子, 乙部恵美子, 斉藤葉子, 田中幹子, 若森研司, 井口亜橋, 溝口和美, 戸塚和香子, 立花弘子, 可知茂男, 高井伸彦, 河合みどり, 古田隆久, 川上純一, 渡邊裕司, 梅村和夫: 治験のスタートアップミーティングのあり方に関する検討: 医療機関における円滑な治験実施を目指して. 臨床薬理 39: S207, 2008.

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 川上純一, 赤瀬朋秀, 恩田光子, 草間真紀子, 佐藤博, 林昌洋, 福田敬: 平成19年度学術委員会学術第8小委員会報告: ファーマシューティカルケアの薬剤経済学的研究に関する検討. 日本病院薬剤師会雑誌 44: 1164-1166, 2008.
2. 吉田直子, 川上純一: 薬の副作用, 注意事項のなぜ? Q & A: 最新臨床で役立つ薬の知識. 月刊ナーシング 28: 112-123, 2008.
3. 川上純一: ファーマシューティカルケアと病院経営: コスト的に非効率な薬剤選択は患者のためにならない. TOWA Communication Plaza 4: 8, 2008.
4. 川上純一: 求められる医療の質向上のための医薬品の合理的使用: 経済性は医薬品選択の重要要素に. 月刊ジェネリック 68: 20-22, 2008.
5. 川上純一, 赤瀬朋秀, 恩田光子, 草間真紀子, 佐藤博, 林昌洋, 福田敬: 平成20年度日本病院薬剤師会病院薬局協議会抄録, 学術委員会学術第8小委員会報告: ファーマシューティカルケアの薬剤経済学的研究に関する検討. 日本病院薬剤師会雑誌 45: 31-36, 2008.
6. 高井伸彦, 可知茂男, 古田隆久, 川上純一, 梅村和夫, 渡邊裕司: 浜松医科大学医学部附属病院で実際に見られた逸脱事例と防止への対策. Pharmstage 8: 19-24, 2008.

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 後藤伸之, 青野浩直, 北山富士子, 片山寛次, 政田幹夫: Q & Aで学ぶ栄養療法と薬学管理. 薬局 (薬局臨時増刊号) 59: 184-189, 2008.

インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 川上純一: グローバリゼーション時代の医薬品選択と薬剤経済学, 津谷喜一郎, Beresniak A 編, 薬剤経済学の活用: 医薬品の経済的エビデンスをつくる・つかう, エルゼビア・ジャパン, 東京, 2008年.
2. 川上純一 (分担執筆): クロルプロマジン, イミプラミン, アミトリプチリン, アプリンジン, アミカシン, パラコート; 臨床検査データブック2009-2010. 高久史磨監修, 黒川清, 春日雅人, 北村聖編集, 医学書院, 東京, 2009年.
3. 吉田直子, 川上純一 (分担執筆): 重症患者におけるメタボリック・マネジメント; Dickerson RN: Metabolic management of the critically ill patient. 平成20年度厚生労働科学研究費補助金 (医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究推進事業). 薬剤師業務の在り方とその評価に関する研究班・日本公定書協会, 薬剤師病棟業務指導者研修会, 東京, 2009年.
4. 川上純一 (分担執筆): 医学大辞典. 伊藤正男, 井村裕夫, 高久史磨編集, 医学書院, 東京, 2009年.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. 片山寛次, 村上真, 北山富士子, 青野浩直, 橋本儀一: 栄養療法とリスクマネジメント; よくわかる臨床栄養管理 実践マニュアル. 合田文則編集, 全日本病院出版会, 東京, 2009年.

4 特許等の出願状況

	平成20年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

5 医学研究費取得状況

	平成20年度
(1) 文部科学省科学研究費	5件 (360万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	3件 (400万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0件 (0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 内藤隆文(代表): 平成20年度科学研究費補助金 若手研究 (B) 「個別化緩和医療に向けた遺伝情報に基づくオピオイド鎮痛薬間の至適投与量換算法の開発」150万円 (新規).
2. 柴田悠喜(代表): 平成20年度科学研究費補助金 奨励研究 「患者情報データベースを利用した高脂血症治療薬の疫学統計に基づく薬剤選択指針の作成」40万円(新規).
3. 平野公美(代表): 平成20年度科学研究費補助金 奨励研究 「代謝拮抗型免疫抑制薬のリンパ

球増殖活性を用いた迅速薬効モニタリング法の開発」58万円（新規）。

4. 吉田直子(代表): 平成20年度科学研究費補助金 奨励研究「漢方薬による薬物トランスポーターの誘導作用に起因した相互作用の予測法の確立」54万円（新規）。
5. 後藤実穂(代表): 平成20年度科学研究費補助金 奨励研究「お薬手帳」を活用した地域薬局との患者情報共有化による薬・薬連携システムの構築」58万円（新規）。

(4) 財団助成金

1. 見野靖晃（代表），賀川義之，川上純一: Novartis CPCF Research Grant 2009（平成20年度）研究助成金100万円（薬力学的指標に基づく代謝拮抗薬の体内動態と免疫抑制作用・有害反応との関係解明）。
2. 内藤隆文（代表），川上純一: 財団法人臨床薬理研究振興財団（平成20年度）（第33回）研究奨励金200万円（遺伝子多型診断に基づくがん性神経障害性疼痛治療薬ガバペンチンの個別化投与設計法の構築）。
3. 内藤隆文（代表），川上純一，堀雄史: 財団法人薬学研究奨励財団（平成20年度）（第29回）研究助成金（グループB）100万円（抗がん薬による院内環境汚染と医療従事者被曝－抗がん薬の網羅的分析法の開発と汚染モニタリングの方法論の構築－）。

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	4件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	7件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	1件	17件
(6) 一般演題発表数	5件	

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

ポスター発表

1. Naito T, Matsushita T, Mino Y, Tokashiki S, Otsuka A, Ushiyama T, Ozono S, Hishida A, Kagawa Y, Kawakami J: Comparison of pharmacokinetics of mycophenolic acid and its glucuronide between in patients with lupus nephritis and with kidney transplantation. The 9th World Conference on Clinical Pharmacology and Therapeutics (CPT2008), Quebec, Canada, Jul 2008.
2. Takashina Y, Naito T, Mino Y, Kagawa Y, Kawakami J: Impact of transdermal absorption and genetic polymorphisms of CYP3A5 and MDR1 on fentanyl pharmacokinetics in patients with cancer pain. The 9th World Conference on Clinical Pharmacology and Therapeutics (CPT2008), Quebec, Canada, Jul 2008.
3. Kokudai M, Inui N, Takeuchi K, Uchida S, Yamada S, Kawakami J, Kagawa Y, Watanabe

- H: Effects of simvastatin, atorvastatin and pitavastatin on the pharmacokinetics of oral midazolam in healthy volunteers. The 9th World Conference on Clinical Pharmacology and Therapeutics (CPT2008), Quebec, Canada, Jul 2008.
4. Yoshida N, Kawakami J, Takada T, Suzuki H, Adachi I: Drug interaction associated with Kampo medicine; Inhibition of ABC transporter-mediated transport by herb extracts and terpenoids in the intestinal absorption process. 68th International Congress of FIP (International Pharmaceutical Federation), Basel, Switzerland, Aug-Sep 2008.
 5. Hori K, Yamakawa K, Suzuki Y, Ohnishi K, Kawakami J: Effect of concomitant drugs on hepatopathy associated with oral 5-fluorouracil S-1. Asian Conference on Pharmacoepidemiology (ACPE)-Korea 2008, Seoul, Korea, Nov 2008.

(2) 国内学会の開催・参加

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 川上純一: ファーマシューティカル・ケアの薬剤経済学的研究に関する検討. 日本病院薬剤師会学術第8小委員会報告: 平成20年度病院薬局協議会. 日本病院薬剤師会, 札幌, 2008年9月.
2. 川上純一: 医薬品の合理的使用とジェネリック医薬品. 第18回日本医療薬学会年会, 札幌, 2008年9月.
3. 川上純一: 国際交流を通じたファーマシューティカル・ケアの発展. 臨床薬学シンポジウム名古屋2008, 名古屋, 2008年11月.
4. 川上純一: 医薬政策・経済学とジェネリック医薬品: 欧米での使用状況から何を学ぶか. 日本薬学会第129年会, 京都, 2009年3月.

4) 座長をした学会名

1. 川上純一 静岡県病院薬剤師会西部支部例会
2. 川上純一 静岡県病院薬剤師会西部支部例会
3. 川上純一 医療薬学フォーラム2008・第16回クリニカルファーマシーシンポジウム
4. 川上純一 第2回日本ジェネリック医薬品学会学術大会
5. 川上純一 第29回日本臨床薬理学会年会
6. 川上純一 第23回静岡県病院薬剤師会学術大会
7. 川上純一 薬剤師病棟業務指導者研修会 (平成20年度厚生労働科学研究費補助金. 医薬品・医療用具等レギュラトリーサイエンス総合研究推進事業)

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 川上純一 日本病院薬剤師会 国際交流委員会 副委員長
2. 川上純一 日本病院薬剤師会 学術第8小委員会 委員長
3. 川上純一 日本病院薬剤師会 代議員
4. 村松英彰 日本病院薬剤師会 感染制御専門薬剤師研修委員会 委員

5. 村松英彰 日本病院薬剤師会 感染制御専門薬剤師認定委員会 委員
6. 川上純一 静岡県病院薬剤師会 常任理事
7. 川上純一 静岡県病院薬剤師会 学生実習委員会 副委員長
8. 鈴木吉成 静岡県病院薬剤師会 理事
9. 渡邊進士 静岡県病院薬剤師会 評議員
10. 渡邊進士 静岡県病院薬剤師会 学術部 委員
11. 川上純一 日本医療薬学会 国際交流委員会 委員
12. 川上純一 日本医療薬学会 評議員
13. 川上純一 国際薬剤疫学会 医薬品使用実態研究部会 運営委員
14. 川上純一 日本臨床薬理学会 評議員
15. 川上純一 日本薬学会東海支部 幹事
16. 川上純一 日本薬物動態学会 評議員
17. 川上純一 日本ジェネリック医薬品学会 評議員
18. 宮本康敬 日本乳癌学会 乳がん患者向けガイドライン作成小委員会 委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	1件

(2) 外国の学術雑誌の編集

1. 川上純一: Drug Metabolism Letters, Bentham Science Publishers, Editorial Advisory Board.

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

1. 川上純一: 日本病院薬剤師会雑誌（2件）（日本）
2. 川上純一: 医療薬学（3件）（日本）
3. 川上純一: 薬学雑誌（2件）（日本）
4. 川上純一: European Journal of Clinical Pharmacology（1件）（Germany）
5. 川上純一: Drug Metabolism and Disposition（1件）（United States）
6. 川上純一: Drug Metabolism and Pharmacokinetics（1件）（日本）
7. 川上純一: Pharmaceutical Biology（1件）（Netherlands）
8. 川上純一: Anti-Cancer Drugs（1件）（United States）
9. 川上純一: Journal of Chromatography B（1件）（Netherlands）
10. 川上純一: Journal of Pharmaceutical and Biomedical Analysis（1件）（England）

9 共同研究の実施状況

	平成20年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	8件
(3) 学内共同研究	5件

(2) 国内共同研究

1. 鈴木洋史 (東京大学): 脂質および脂溶性ビタミンの消化管吸収の個人差を規定する遺伝的要因の解明
2. 賀川義之 (静岡県立大学): 関節リウマチ患者における免疫抑制薬の体内動態と薬効および有害反応との関係
3. 賀川義之 (静岡県立大学): 腎移植患者における代謝拮抗型免疫抑制薬の体内動態と薬効および有害反応との関係
4. 賀川義之 (静岡県立大学): 脂質異常症治療薬の体内動態および薬効における個人差要因の解析
5. 賀川義之 (静岡県立大学): がん性疼痛患者におけるオピオイド鎮痛薬の体内動態と薬効および有害反応との関係
6. 中西邦夫 (摂南大学): LC-MS/MS法を用いた白金抗がん薬の微量分析法の開発と臨床応用
7. 川上浩司 (京都大学): 白金系製剤を含む化学療法中に発現した悪心・嘔吐の治療にかかるコストの調査研究
8. 川上浩司 (京都大学): 小児の感染性胃腸炎における医薬品使用の実態調査

(3) 学内共同研究

1. 菱田明 (内科学第一), 小川法良 (内科学第三): 全身性エリテマトーデス患者における代謝拮抗性免疫抑制薬の体内動態と薬効および有害反応との関係
2. 小川法良 (内科学第三), 影山康徳 (整形外科): 関節リウマチ患者における免疫抑制薬の体内動態と薬効および有害反応との関係
3. 牛山知己 (泌尿器科): 腎移植患者における代謝拮抗性免疫抑制薬の体内動態と薬効および有害反応との関係
4. 大園誠一郎 (泌尿器科): 前立腺がん患者におけるドセタキセルの体内動態および薬効・副作用における個人差要因の解析
5. 大園誠一郎 (泌尿器科): 白金系製剤を含む化学療法中に発現した悪心・嘔吐の治療にかかるコストの調査研究

10 産学共同研究

	平成20年度
産学共同研究	0件

15 新聞、雑誌等による報道

1. 川上純一: 浜松医大・川上教授 後発品効果, 海外でも一様ではない (記事掲載), 日刊薬業, 2009. 3. 26.
2. 川上純一: ファーマシューティカルケアの薬剤経済学的研究に関する検討: 病薬アワー, 番組出演, ラジオNIKKEI, 2008年12月放送.